

【審判委員会】

1. コートワイピング

試合中のワイピング（フロアモッピング）については、コート上の選手が携帯したスモールタオルで速やかに行うこと。柄付きモップによるワイピングは、タイムアウト中とインターバル（セット間）は、チームの交代選手もしくはベンチスタッフが行ってもよい。（レフェリーが認めたときも柄付きモップによるワイピングを行うことができる。）

2. 選手交代

全試合、クイックサブスティチューション制を採用する。

3. リベロ・プレーヤー

- ・チームは2名までリベロを指名することができる。
- ・リベロは、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。

4. ボールをプレーするときの反則

① キャッチ

ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このような動作はキャッチの反則となることがある。

ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。

② ダブルコンタクト

1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

5. 不当な要求

正規の試合中断の要求（タイムアウト・選手交代）に関して、遅延行為が適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除いて）

6. ネットを通過するボール

ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を超えた時点でボールアウトとなる。

7. サービスの許可

コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、サービスのホイッスルの前に促す。もし、ファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり、完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則なしにラリーをやり直さなければならない。

ポジション4にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイスメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイスメントが行われない場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイスメントさせ、その後遅延行為に対する罰則を与える。もし、ラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。

サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイスメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記②と同様の処置を行う。

8. スクリーン

サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上に上げてはならない。チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上に上げている場合（頭を保護するために、頭の後ろに手を上げることは許される）、スクリーンの反則になることがある。上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後に注意をする。

9. ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

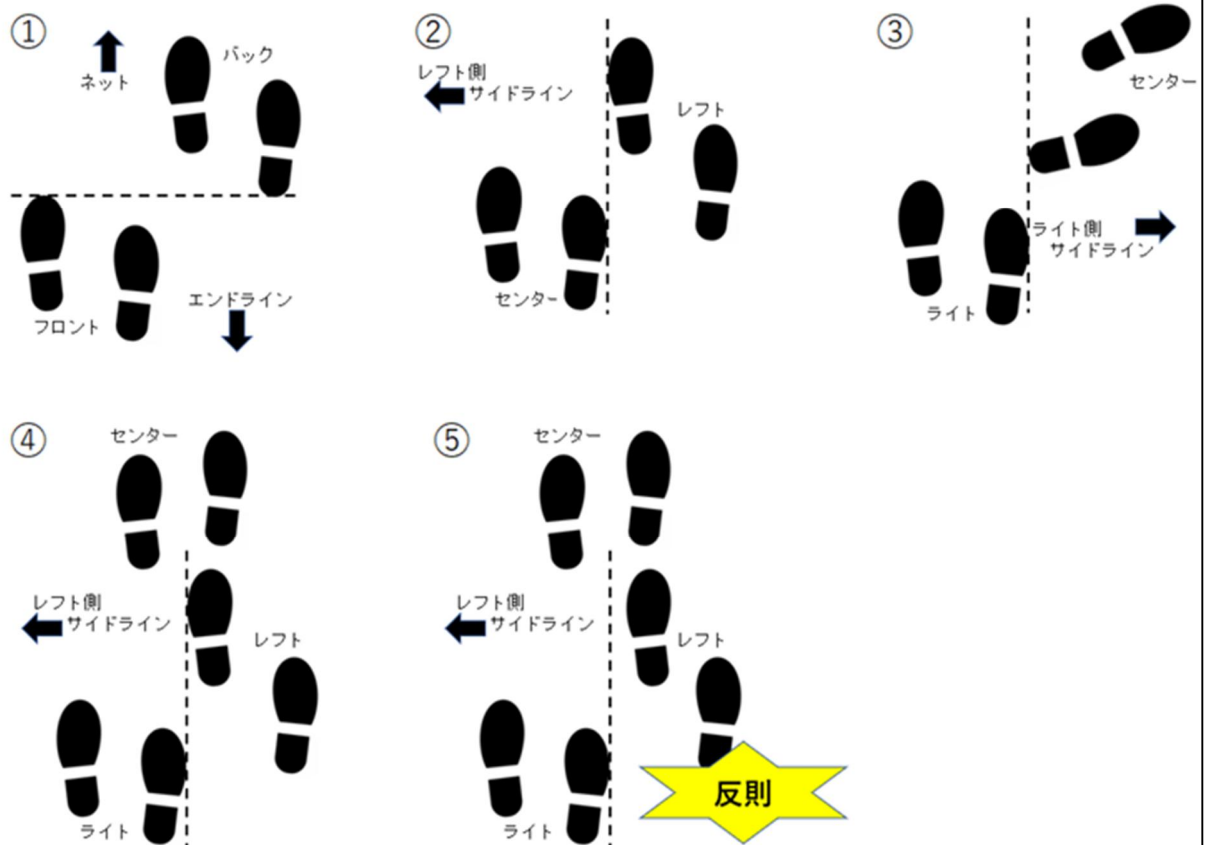
ライト（レフト）サイドの各選手は、同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

（注）

- ①サービングチームはローテーション順に位置していなくても反則にはならないが、コート内に位置していないと反則となる。また、サービングチームはフリーポジションではないので、レフェリーはフロント・バックなどのポジションの確認は必要である。
- ②レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サービスヒットの瞬間である。そのためサーバーがボールをリリースしてからヒットの瞬間までに、ポジションが完全に入れ替わったケースは反則となる。サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わり反則となっているケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- ③サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

(注)

下図①から④はいずれも反則とならない。



10. セット間

セット間の時間は前のセットが終了後、次のセットが開始されるまで3分間である。したがって、前のセットの終了後2分30秒でホイッスルをし、スターティングメンバーをコートに入れ、ラインアップを確認する。そのためにセカンドレフェリーは、積極的に次のセットのラインアップシートの提出を監督に要求する。

11. 試合前後の挨拶について

試合の前後は、試合に登録された選手全員がエンドラインに整列し、ファーストレフェリーの合図で挨拶をかわした後、握手を行いベンチに戻ることにする。

12. 少人数で登録したチームが負傷による原因で不完全なチームになることの救済措置

正規の選手が負傷した時、リベロ以外に交代する選手がいない場合は、リベロを正規の選手として指名して試合を続行することができる。

①登録7名の内、リベロ1名の場合リベロを正規の選手に指名することができる。

②登録8名の内、リベロ2名の場合リベロ2名の内、どちらかを正規の選手に指名することができる。

ユニフォームについては、正規の選手に指名されたリベロが、可能な限り正規の選手と同じユニフォームを着用すること。それが不可能な場合は、ビブスを着用すること。

13. 審判割当について

審判役員集合の遅れが試合遅延の大きな理由となっています。

※審判割り当て「呼び出し0」を大会の目標にしています。

29 回大会以降のアシスタントスコアラ－の必要性についての大きな決定要素となります。チームで十分ご確認をお願いします。

①審判担当の試合について

- ・ チームからセカンドレフェリー1 名、スコアラ－1 名、アシスタントスコアラ－1 名、ラインジャッジ4 名、点示員2 名の合計9 名をチームから出すものとする。セカンドレフェリーとスコアラ－は、必ずチームスタッフ（帯同審判員）が行うこと。選手は認めない。※アシスタントスコアラ－は選手可。
- ・ セカンドレフェリーについては、J V A 公認審判員有資格者であることを強く要望している。
- ・ **スコアラ－（スコアシートを記入できるチームスタッフ）がいない場合、試合前に早急に本部に申請すること。申請があった場合は、審判委員会でスコアラ－を担当する。**

②大会2 日目の審判について役員は、原則として、前試合の敗者チームとする。

- ・ 敗者チームに審判有資格者が不在で、勝者チームがセカンドレフェリーを行うことが出来る環境であれば、それを妨げるものではない。
- ・ 決勝トーナメント準決勝と決勝については、審判委員会がファーストレフェリー・セカンドレフェリーを担当する。スコアラ－、アシスタントスコアラ－、ラインジャッジ、点示員はチームで担当すること。
- ・ ラインジャッジフラッグについて、審判委員会でも用意するが、「共用」を避ける観点からチームで持参することが望ましい。

③大会2 日目 第1 試合の審判割当に注意すること。

- ・ 大会当日に配布するプログラム【コート表2 日目】p16～17 を参照すること。
※MARIN の部は、当該コートの3 試合目のチーム。
(SKY の部は、男女とも、C3 位)
- ・ 原則として、前に表記されているチームがセカンドレフェリー、スコアラ－、アシスタントスコアラ－・点示員を担当し、後に表記されているチームをラインジャッジとする。
※13. ②に記載の通り、できるだけ審判有資格者で運営できるようにご協力ください。